

今年も多く卒業生から合格体験記が寄せられ、刊行される運びとなりました。後輩のために寄稿された卒業生の皆さんには、心より感謝いたします。

大学合格は、将来したいことを実現できるスタート地点に立ったということであり、ゴールではありません。大学入学後は初期の想いを継続する意欲や新たな学びへの向学心、そして困難に立ち向かう忍耐力が必要となります。

何より、自分は何を大切にしたいかという生きることの本質をしっかりと見ていくことが、学ぶことの意義を考える上で重要なこととなります。

学びというものは、形を変えつつも生涯続くものです。多くの経験を積み、新たな人と出会い、自分を成長させていくことこそ大切なことといえます。

新たな環境が、その人の才能を開花させるということがよくあります。生徒の皆さんには、卒業生からのアドバイスを参考にして、多くのことにチャレンジし、いろいろな学びを大切にしたいと思えます。成功体験は自信につながり、たとえ失敗したとしても、そこから学ぶものはたくさんあります。

この合格体験記には、現役の時には希望大学への合格が果たせず、浪人して望みを果たした生徒の体験も載っています。「あきらめなければ失敗ではない」という彼らの体験を通して、多くのことを学んで欲しいと思えます。夢や目標に向かって前向きでさえあれば、進むスピードは人それぞれです。学ぶ心があれば、一見無駄と思えることも無駄ではありません。

人の能力に差があることは否めません。しかし、それよりも、やろうと努力することのほうが結果への影響が大きいものです。そして、人の能力というのは、取りかかりの早さとそれをやり続ける継続力となって現れてきます。

学びは一生続くものです。ならば、学びを楽しむことこそ、人生を楽しむこととなります。いつの時でも向学心を忘れず、好奇心を旺盛にし、広い視野と深い洞察力を身に付けてほしいと思えます。それこそが、人生を豊かにする方法といえるでしょう。

最後に、以前の卒業生が話していた後輩へのアドバイスを紹介します。

「受験の結果については後悔していない。しかし、やれる時間があつたのに、やらなかった自分に後悔している。皆さんには、今日を後悔しないように生きてほしい。」

世の中で最も平等なことは、誰にも時間は同じように流れているということです。1日は24時間。1年は365日。この限られた時間で何をすべきなのかをよく考えてほしいと思えます。自分にとって大切なことのために、自分の貴重な時間を使いたいものです。

この「合格体験記」が生徒の皆さんへの良きアドバイスとなり、皆さんがさらに成長することを願っています。